

# カッター研修の流れ

国立淡路青少年交流の家

**AWAJI**  
YOUTH  
FRIENDSHIP  
CENTER

# カッター研修の流れ

- ・艇長・通信係レクチャー 約20分
- ・全体レクチャー 40分～50分
- ・カッター係留地(岸壁)までの移動 3分～5分
- ・海上での研修 約90分
- ・ふりかえり(反省) 約15分 ※大まかな目安です。

## 艇長、通信係レクチャーの流れ

- カッター研修の**経験の有無と目的**を確認します。
- 大まかな**研修の流れ**を確認します。
- **用語の説明**をします。
- 艇長、通信係の**役割**の説明をします。

お尋ねします。

カッター研修の経験はありますか？

研修の目的は？

目的を達成するためにも、安全な  
研修のご協力お願いいたします。



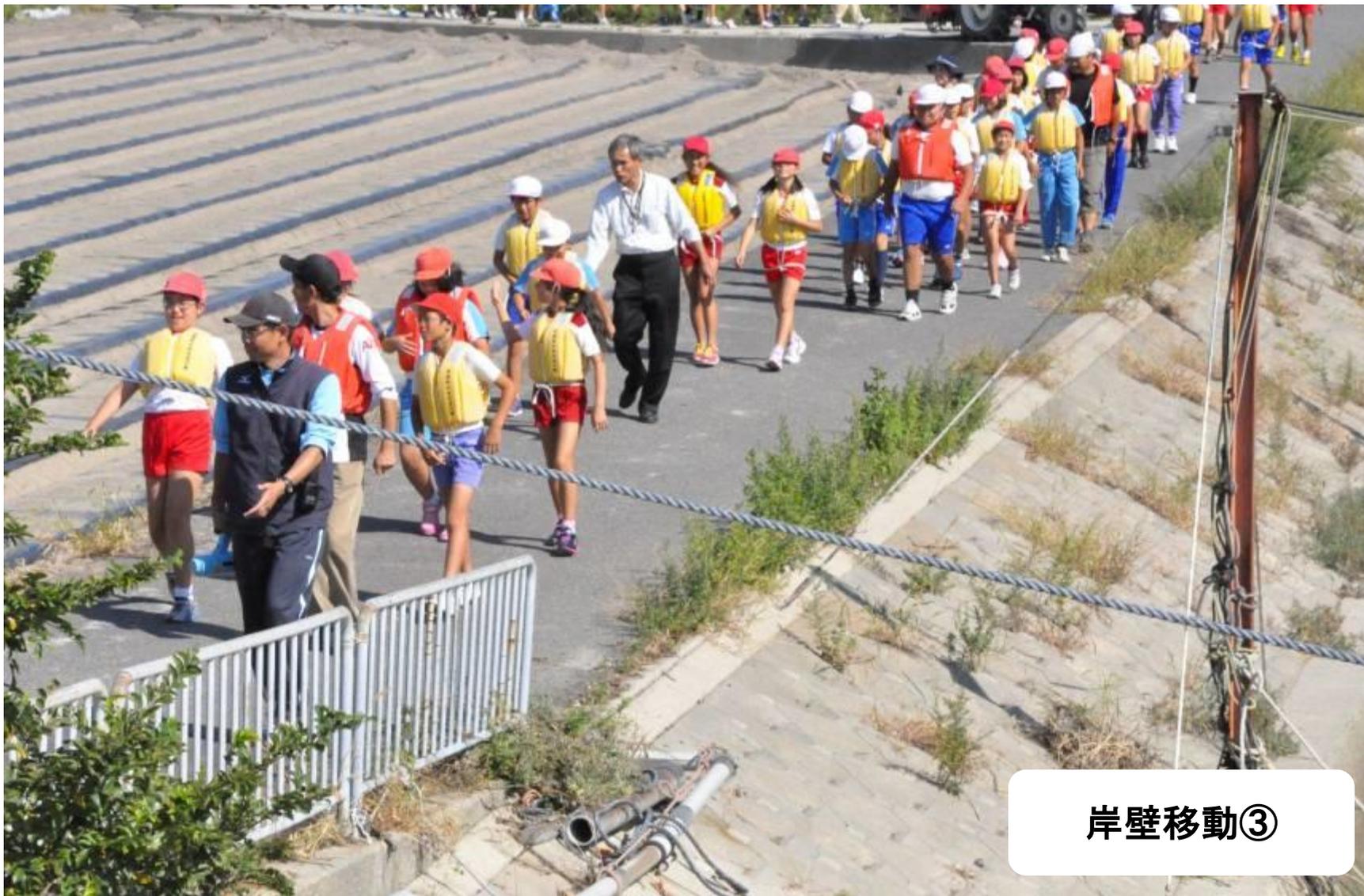
全体レクチャー①

艇庫前の地面に書かれてあるカッター図の自分の位置に座って待機します。



全体レクチャー②

代表でレクチャーを行う艇を決めて、それ以外はスタンドへ移動・着席をします。



岸壁移動③

ライフジャケットを着用して、公道を2列で岸壁に移動します。

海上研修開始④



岸壁に整列して船長さんに挨拶をします。



乗艇⑤

各艇に乗艇します。



乗艇する時は舷を触らない。

※バランスを崩した場合は、内側のへりに手を着きます。



牽引⑦

艇長は自分たちより後ろの艇の牽引ロープを引き、自分の艇のフックにつなぐことで艇を連結します<sup>10</sup>。



出港⑧

連結した状態で指揮艇が曳航し出港します。



研修開始⑨

海上で順番に櫂立てをして、牽引ロープを切り離します。



指揮艇

研修中について⑩

研修中は基本的に青い旗のついた指揮艇に向かって漕ぎます。  
また、艇の間隔(30m以上)をとって研修をします<sup>3</sup>。



研修中について⑪

研修中に着岸時に必要な一斉櫂立てを3回練習します。



入港⑫

入港は100mほど間隔をあけます。



着岸準備⑬

ボートフック係は準備します。  
※掛け声は小さくしてください。



着岸時⑭

ボートフック係が岸壁を押して着岸です。  
※岸壁にいる職員の指示にしたがってください。⑦



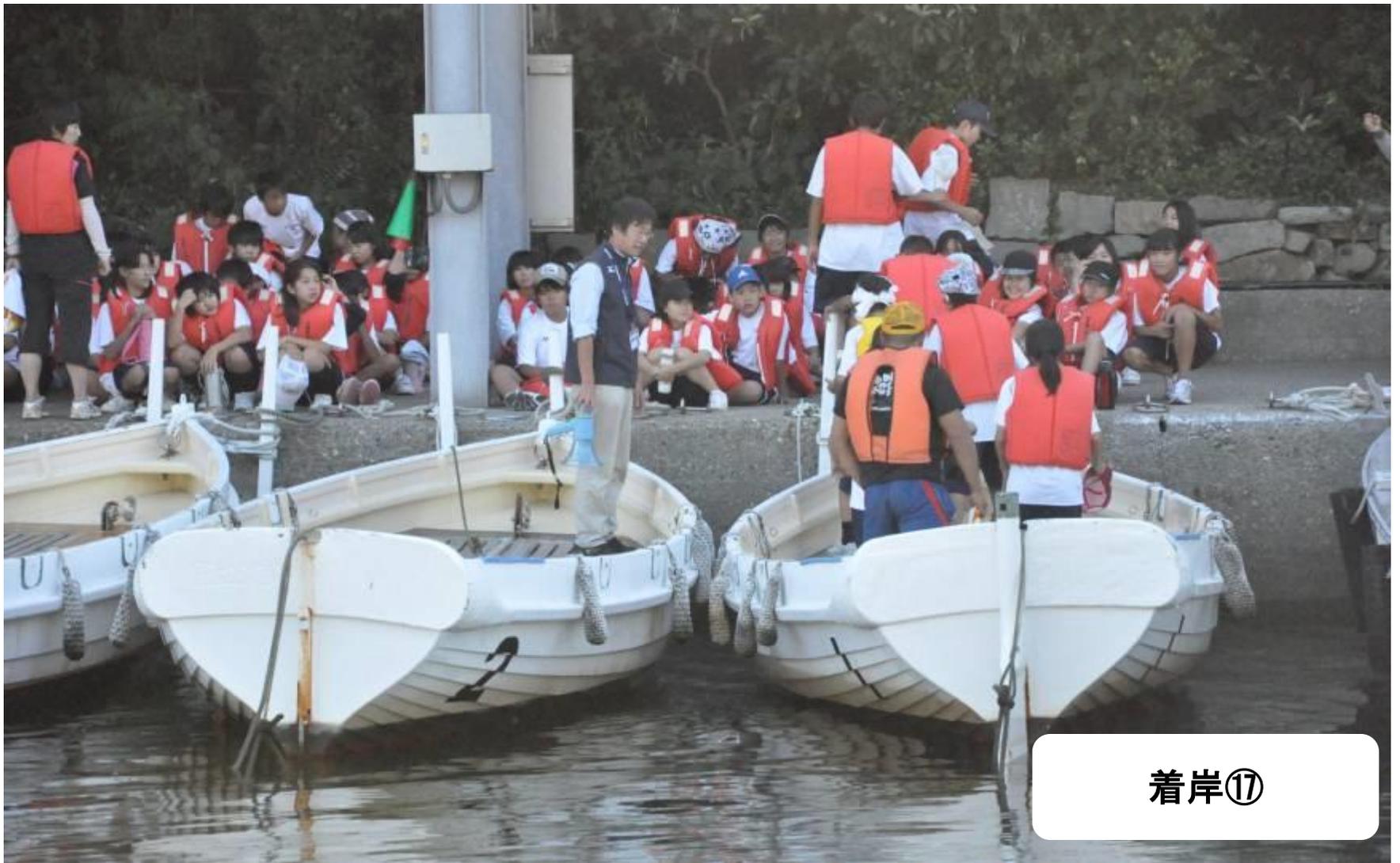
着岸⑮

艇長は岸壁から回ってきたアンカーロープを引き上げ、足もとのフックにかけて艇を固定します。Q8



上陸準備⑬

櫂収めをしていきます。



着岸⑰

舷を触らないようにして降りていきます。  
※先に降りた乗艇員は静かに待機します。



海上研修終了⑱

船長・職員にお礼のあいさつをします。



艇庫前でふりかえりをします。

# 用語の説明

・<sup>かい</sup>櫂（オール）

・<sup>かい</sup>櫂<sup>ざ</sup>座

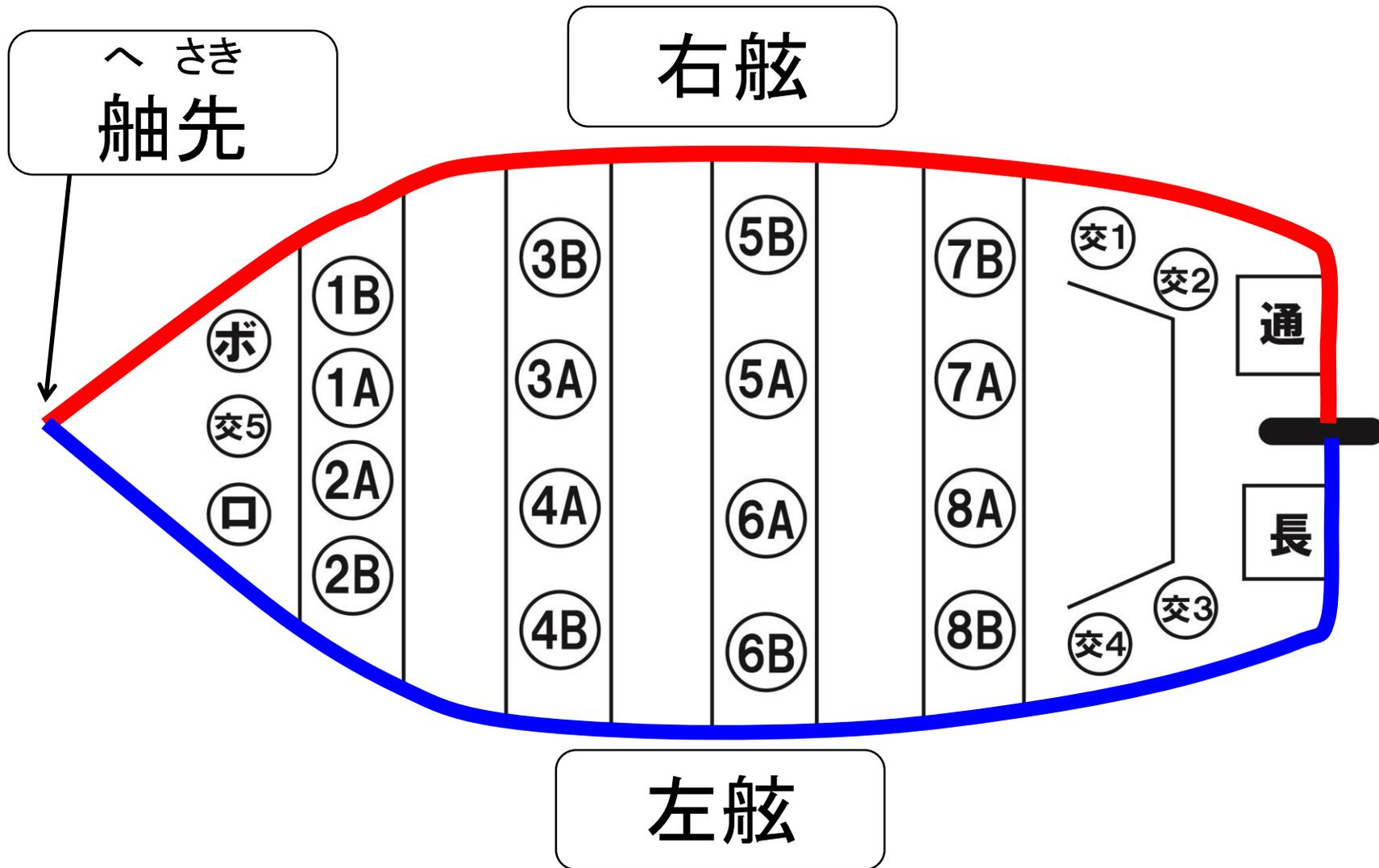
・<sup>かい</sup>櫂<sup>ざ</sup>座<sup>せん</sup>栓

・ボートフック

・<sup>かじ</sup>舵

・<sup>かじ</sup>舵棒

・<sup>げん</sup>舷



左舷・右舷は艇の進行方向が基準となっています。

# 艇長の役割

## ▪ 舵の操作

## ▪ モチベーションを高める

休憩や交代の指示も行います。  
やる気を引き出すように声をかけてください。

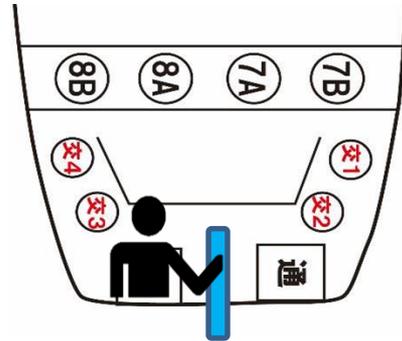
## ▪ 安全指導

海上はもちろんですが、交通指導や説明を聞く態度にも注意を払ってください。

# 1. 艇の操作

操作は押す、もどす、引くの3つです。

動かす大きさによって艇の曲がり方も変わります。



<進む方向>

押す → 左

戻す → まっすぐ

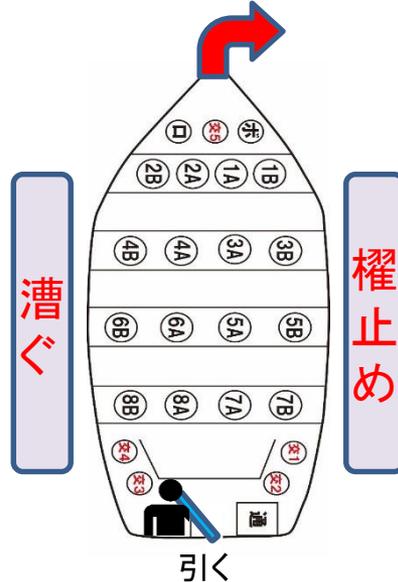
引く → 右

※舵棒を大きく動かす程、良く曲がります。

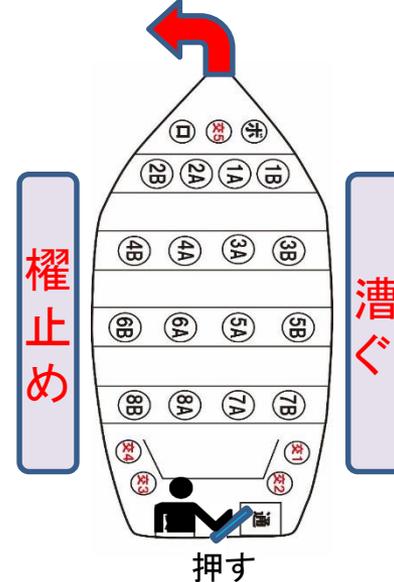
引く ← 戻す → 押す

# 2. 急旋回

右への急旋回



左への急旋回



# 通信系の役割

指揮艇・救助艇からの指示に無線機で応えます。  
指揮艇・救助艇からの指示を艇長に伝えます。

## 無線機の使い方

※基本的にたすき掛けをし、左手で持ちます。

1 右端の白い縦線の入ったつまみを右に回します。



2 カチッという音がして、液晶画面に【CH06】と記号が出ます。他の記号が出た場合は、チャンネルのつまみを回して【CH06】に設定してください。



3 ボリュームのつまみは、右に回すと大きくなります。



4 トークボタンを押してから(押したまま)話します。話し終わったら離してください。



# 交信の内容例

※最初に呼び出す相手を伝えます。

指揮艇:「指揮艇から各艇に連絡します。この無線が聞こえていましたら応答願います。どうぞ。」

☆「・・・どうぞ。」は話し手が終わることを意味しますので、「どうぞ。」が聞こえたら、次の話し手が返答をします。

☆何号艇と指定がない場合には1号艇から順番に返答します。

☆国淡青本部を呼び出すこともあります。

1号艇:「1号艇、了解どうぞ。」

※緊急で指揮艇を呼び出す場合

1号艇:「こちら〇号艇。指揮艇応答願います。どうぞ」

※長い指示もあります。

指揮艇:「指揮艇から〇号艇に連絡します。切り離されたロープをすべて艇内に回収し、艇長はかじ棒を取り付け、櫂を櫂座に備え、青い旗のついた指揮艇のほうに向かって漕ぐ練習を始めてください。どうぞ。」

# カッター一係留地 付近地図

吹上浜

国立淡路青少年交流の家

カッター一係留地



白い灯台



赤い灯台

阿万海岸